

2011年3月7日

社団法人 日本建築学会
会長 佐藤 滋 殿

法政大学
総長 増田 壽男

「法政大学 55・58 年館の保存活用に関する要望書」に対するご回答の送付について

拝啓 早春の候、皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、先般頂戴いたしました標記要望書につき、別紙のとおり回答させていただきます。

ご要望にお応えすることができず恐縮ではございますが、本学の姿勢をご理解いただくと共に、引き続きご協力賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

敬具

2011年 2月 24日

社団法人 日本建築学会
会長 佐藤 滋 殿

法政大学
総長 増田 壽男



「法政大学 55・58 年館の保存活用に関する要望書」について

拝啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、過日に頂戴しました標記要望書につきましては、本学 55・58 年館の歴史的価値を高く評価いただくとともに、保存活用に関する支援を協力いただける旨の申し出を頂戴し、誠にありがとうございます。

55・58 年館の歴史的・文化的価値につきましては、要望書でご指摘の通りであり、このことについては何の異存もございません。

しかしながら、55・58 年館の保存については次の理由で断念して解体・建替えを行うことを理事会で決定し、学内に設置されました市ヶ谷開発本部会議、市ヶ谷開発調整作業委員会、並びに学部長懇談会、関連学部教授会でも慎重に検討を重ね、55・58 年館を主に利用する学部の意思を確認しております。

1. 時代の要請に応える教育環境の整備と安全性の確保

55・58 年館は、現在の教育環境と照らし合わせると、保存改修を行ったとしても、教室規模及び教室数、教室面積、設備面等において、本学において求められる教育研究施設としての機能に比べられないとの結論に至りました。また築 50 年を超える校舎は、内外装及び設備の老朽化だけでなく、耐震性能の問題や防災安全性の問題性も抱えており、学生・父母からも厳しい指摘を受けております。

現在及び将来の学生にとって、安全で利便性・快適性の高い施設の整備が求められることは言うまでもなく、55・58 年館を保存改修して運用していくことは大変難しいと判断しております。

2. 都心キャンパスにおける敷地的制約

時代の変化と本学の将来を見据え、市ヶ谷キャンパスに「国際化、高度情報社会に対応する 21 世紀の大学に相応しい教育研究施設」を整備することが必要となっておりますが、都心に位置する市ヶ谷キャンパスには、55・58 年館を保存し、新たな施設を建設する敷地が残されていません。このため、既存敷地を有効活用する必要があります。

なお、55・58 年館の写真や図面等の関係記録についてキャンパス内で展示を行うなど、未永く本学の記憶として継承していくことを計画しております。

55・58 年館を解体しなければならないことは本学にとっても誠に残念なことではあります。ご理解とご協力を賜りますように、よろしくお願い申し上げます。

敬具